

第2 - 3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術科学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座を開催する 	
<p>責任者:放射線技術科学科長 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和2年度には、超音波装置2台と無散瞳眼底カメラの更新を計画している。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 購入・更新できた。 ・ 本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 病院見学のマニュアルを作成したが、コロナ禍で病院訪問はできなかった。 ② 3年時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全員無事に臨床実習指導施設が決まった。 ③ 3年学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍のため感染対策を行いながら期間を延長して行った。 ④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフ

	<p>オリオ」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実習ノートを点検した。</p> <p>⑤ 臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義を行う。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 Zoom で行った。</p> <p>・臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 開催した。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>・1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 面談を行ったが成果の上がらない学生が数名いた。</p> <p>・欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員(学科教員)と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務課の連絡や授業担当者からの情報を共有し学生の指導を行った。</p> <p>・1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格(診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者)の取得を意識した講義を行う。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 I種の合格者2年生3名、3年生15名、4年0名</p> <p>・ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ガイダンスで説明を行い面談で確認した。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は75%。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試合格率85.1%、入学者あたりの合格率59..8%であった。</p> <p>・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業全般では取り組んでいるが、今年度の国家試験の成績に反映されていなかった。</p>

	<p>・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。目標を達成するため以下を計画する。</p> <p>① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 開催し、情報共有した。</p> <p>② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 10月、11月に補講として60コマ行った。</p> <p>③ 年8回、学内模擬試験を実施する(学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する)。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナで実習期間が延び、8月は開催できなかった。</p> <p>④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援(個人指導)を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行ったが成果の現れない学生がいた。</p> <p>⑤ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行った。</p> <p>⑥ 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 対応できない学生がいた。</p> <p>⑦ 過年度4年生に対し、特別留年支援制度を活用して、成績の振るわなかった科目の繰り返し履修と国試対策模擬試験を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行った。</p> <p>⑧ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習達成状況を面談またはSUMS-POにより把握する。国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 促した。</p> <p>・10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義(放射線科学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>
--	---

鈴鹿医療科学大学

	上記達成状況の具体的内容 予定通り行った。
4. 市民公開講座を開催する	(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止) (評価不可)

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の実施 	
<p>責任者:医療栄養学科長 分担者:管理栄養学専攻長、三浦俊宏（管理栄養学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 臨床検査学専攻との合同演習授業の構築	<p>1. 本学科が管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、両専攻学生の相互理解を深めて将来の医療人としての見識を広める試みを進める。管理栄養士と臨床検査技師が共に参加するチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生が参加した演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス流行の影響により両専攻学生の対面による演習授業が実施できなかった。そのため前年度に参加した学生のうち今年度学籍中の学生にアンケートを実施し、演習授業の成果の追跡調査を実施することとどめざるを得なかった。</p> <p>2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 球技大会やバーバキュー会等は企画したが実施は新型コロナウイルス流行に伴う学内体制に従って見送らざるを得なかった。学生には引き継ぎを指導した。</p> <p>3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたが選択した学生がなかったことについてのアンケート結果を分析し、実施方法と内容改善を両専攻で検討する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 上記計画への参加学生参加がなかったことの原因が寄せられたので今後の改善課題として教員で情報共有を徹底した。改善方法についてはコロナウイルス流行による授業形態とのすり合わせが必要であり、臨床検査学専攻と協議を続けている。</p>

<p>2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、アチーブメントテストを3年生から順次導入し、その活用を図る。 3年生学生対象の上記アチーブメントテストを総合演習Ⅰの単位認定に含めることとし、学生の学修習熟度を評価する指標にする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 アチーブメントテストを実施し、3年生の総合演習Ⅰの単位認定に25%の比重で評価している。</p> <p>2. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようになってきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の涵養に務める。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実習内容によって試験での評価が可能な科目については実施している。今後とも実施を拡大していく。</p> <p>3. IR室との連携を基礎にして、学生の教育および生活の問題点を解析し、その解決を図るための検討資料とする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IR室からの情報をもとに、教育の質保証委員会で協議するとともに、教育の質保証委員会には専攻のIR担当教員が加わり、課題の発掘と解決の努力を行なっている。</p> <p>4. “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 目標通りの活動を行なった。</p> <p>5. 学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務委員会を組織し、臨床検査学専攻教員と合同で問題点の解決を図っている。</p>
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 正規カリキュラムで卒業生による業務関連の紹介を学生に提供するとともに、ガイダンスなどでも卒業生から情報提供をもらった。</p> <p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会は新型コロナウイルス問題で状況が見通せないが、正規課程内／外での機会を設けて早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 現場での体験は実施できなかったが、遠隔授業形式で実施計画の内容については1年生に提供し、早期導入を進めることができた。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実が喫緊の課題である。しかし新型コロナウイルス問題でリメディアル教育は困難であるので、学年担任教員は個人面談を通じて学力に問題がある学生を把握して個別の学習指導も行なってモチベーションを維持させるように指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生にとって対面授業の機会も少なかつたので、積極的に面談を行い、学力面の不安や必要な支援については学生の要望を聞き、対応を進めた。</p> <p>4. グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 対面授業実施期間中は、担当教員によるグループワーク実施を推奨し、学生の自主的学習の推進を図った。しかし対面授業を行うことができない期間も長かつたため、一部については完全実施とはならなかつた。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、新型コロナウイルス感染流行という困難な環境下でも教員は4年生学生との接触を取り、学生の学習環境確保に努める。また、成績不振者には補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々に応じた指導をきめ細かく継続する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 模擬試験ごとに成績不振者に対する補講や面談を行って支援に努めた。しかし新型コロナウイルス流行による学生の登校制限や国試直前個別指導などは完全な実施が困難であった。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 2020年度の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更学生を除いた入学者あたりの合格率90%を目標とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2020年度新規卒業者の合格率は86.1%、4年修了者で88.6%であった。また進路変更学生を除く入学者中の合格率でも73.8%に止まり、目標には届かなかつた。</p> <p>2. カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で指導を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 両科目とも実施した。</p> <p>3. 3年生以下の学生も国家試験問題に接する機会が持てるようにして卒業までに求められる学習のアウトカムを早い段階から具体的に意識させる。3年生にも模擬試験受験を可能にするように指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 各科目担当教員には国家試験出題内容を紹介し、対処できるように講義内容を考えてもらい実施を進めた。しかし3年生の模擬試験実施については継続検討課題とした。</p>
<p>5. 市民公開講座の実施</p>	<p>臨床検査学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) (評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可) 上記達成状況の具体的内容 市民公開講座を2020年8月に開催することを一旦決定し、企画の詳細を競技し板が、新型コロナウイルス流行が終息しない社会情勢に鑑みて、開催を見送らざるを得なかった。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医療栄養学科長／臨床検査学専攻長 分担者:吉子健一（臨床検査学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 管理栄養学専攻との合同授業の構築</p>	<p>1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かした、両専攻学生・教員による合同演習授業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養指導) 管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に対し栄養指導を第2-2期同様に実施する事が、新型コロナウイルス感染症発生のため困難である。よって、被検者であった臨床検査学専攻現4年生へのアンケート調査の実施などにより、第2-2期の成果を詳細に検討し、実施方法などを改善する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 昨年被検者となった臨床検査学専攻4年生へのアンケート調査を行い、改善策について学科教務委員会で検討を行った。 ・ 検査説明) 上記の栄養指導における検討結果を参考に、臨床検査学専攻4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う演習の具体的実施計画を作成する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 管理栄養学専攻3年生に臨床検査学専攻の必須科目である臨床検査医学演習(R-CPC)を聴講してもらい、その後に理解度や興味のある内容などに関するアンケートを行った。アンケートを基に、両専攻合同演習の具体的実施計画のプロトタイプを作成した。 <p>2. 学科内の二専攻学生の相互交流の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生主導で両専攻学生・教員の交歓会を企画する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍の為相互交流が出来なかったため、各専攻学友会の4年生－3年生間で引継ぎを行った。

	<p>3. 両専攻学生が相互に他の専攻の授業を聴講する制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 2-2 期では両専攻共に受講者がなかったことを受けて行ったアンケート調査の分析結果を基に、実施形態の改善を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>管理栄養学専攻 3 年生 19 名が臨床検査学専攻必須科目である臨床検査医学演習(R-CPC)を聴講し、終了後にプレゼン内容の理解度や興味の高かった内容などに関するアンケートを行い、次年度に向けて検討を行った。</p>
<p>2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. アチーブメントテスト(学習達成度確認試験)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> アチーブメントテスト(学習達成度確認試験)を3年生後期のガイダンスで実施し、その成績を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に反映させ、取り組む意欲を高める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3 年生後期のガイダンスでアチーブメントテストを実施し、その結果を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に反映させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 年次生への実施に向けて具体的に検討する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2 年次生に対するアチーブメントテスト実施計画を立て、2021 年度後期のガイダンスで実施することを学生にアナウンスした。</p> <p>2. IR 分析結果の教育改革・改善に向けた利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の質保証委員会の IR 委員と LMS 委員を中心に、IR 推進室との連携を深め、第 2-2 期に引き継いで、教育方法の改革・改善に向けた IR の利用について検討を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>IR 委員により各学年の GPA の解析が行われ、特に2年次の GPA が低い学生に対し、2~3 年生は主に担任が、4 年生は主にゼミ教員が指導を行った。また、1 年生に対しても担任から同様の指導を行った。</p> <p>3. 再生医療技術学と同実習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019 年度より新たに始まった再生医療技術学(3 年次)に関し、授業評価等を基に実施方法を改善すると共に、再生医療技術学実習(4 年次)を実施する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>前年度の授業評価アンケートや、再生医療に携わる企業から招いた特別講師による授業後のアンケート結果を基に授業改善を図った。再生医療技術学実習(4 年次)は、12 名の学生が受講し全員優秀な成績を収めた。</p> <p>4. 臨床検査と臨床病態との関連性に関する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 年生後期始め行なうアチーブメントテストの成績を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に加えることにより、基礎学力を高め、本授業の質の向上を図る。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3 年生後期のガイダンスでアチーブメントテストを実施し、その成績を</p>

	<p>臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に反映させることにより定期試験の成績が顕著で無いが向上した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. の項の「両専攻学生・教員による合同演習授業」の実施に向けて、「病態・検査の分かり易い説明の仕方の修得方法について検討を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 管理栄養学専攻3年生19名が臨床検査学専攻必須科目である臨床検査医学演習(R-CPC)を聴講し、終了後にプレゼン内容の理解度や興味の高かった内容などに関するアンケートを行い、それを基に「病態・検査の分かり易い説明の仕方の修得方法について検討を行った。</p> <p>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムに向けた教育改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 現時点で公表されている2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラム(案)を基に、現在の教育内容を全体的に検証する。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2020年度から検証し、2021年度も引き続き申請書の作成と共に検証を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2-2期に引き続き臨床実習前教育の体制作りを進める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2020年度は、挨拶、手洗い、心電図に加え、ABO式血液型検査も行った。</p> <p>6. 学科教務委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2-2期に引き続き、専攻の教育の質保証委員会は設置(案)に基づく活動を行う。学科教務委員会では関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図る。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎月、管理栄養学専攻と合同で教育の質保証委員会を兼ねて会議を行った。</p>
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 早期臨床体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年前期の医療人底力実践(基礎I)の病院見学が新型コロナウイルス感染症発生のため実施できないので、OB・OGとの意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。さらに学内での模擬実習について検討する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 底力の学科プログラムにおいてOB・OGに講演して頂いた後、1年生との間で意見交換を行った。学内での模擬実習については検討を行なった結果、現場の雰囲気を感じ取れない実習を行っても、現在行っている講義並びにグループワークをこえる成果がほとんど得られ無いとの結論に達した。</p>

	<p>2. キャリアプランニング授業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 木曜日1限等を利用する、学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学内の他分野やOB・OGを含む外部講師も招いて行う計画について、教務委員と就職委員が中心となり検討した。</p> <p>3. 成績不振者に対する面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2-2期に引き継ぎ、1~3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談行を行い、IR推進室の分析報告を活用して、目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 コロナ禍のためZOOMも用いて第2-2期に引き継ぎ、それぞれの学生に合った学習指導・支援を行った。</p> <p>4. 学会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2-2期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 向学心を高めるため、2021年2月に3年生を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の一コマとして、ZOOMで開催された三重県医学検査学会に参加させ、本学会内容に関するレポート課題を提出させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症発生のため開催されない場合は、学内で疑似体験を検討する。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 評価不可(学会が開催されたため検討していない)</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率</p> <p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 現役受験者の合格率は95.6%、入学者あたりの合格率は82.4%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育法を構築する。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 定期試験や模擬試験において、各問題の正解率などから、特に成績不振者に共通する弱点を見出し、それぞれの学生に合った学習法を提案・提供した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教務委員と学習法の研究を行っている教員を中心に、eラーニングシステムを試作した。</p>
<p>5. 市民公開講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を実施する。 新型コロナウイルス感染症発生のため開催できない場合は、次年度に向け、より良い企画となるように検討する。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 検討を行いコロナ終息後の仮プログラムを作成した。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療法学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:理学療法学科長/理学療法学専攻長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴う学内実習科目、臨床実習科目の教育の質低下への対応 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学内実習科目:全ての専門科目で前期分も含め、後期対面にて例年通りの内容を実施した。 臨床実習科目:4年生対象学生全員が最低 10 週間の臨床実習を実施(通常 15 週)。待機期間にはオンラインで代替演習、課題を実施した。3年生は例年通り実施できた。 ・指定規則改定に対応する臨床実習カリキュラムの準備 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 カリキュラム変更に伴う実習期間、内容の改変は実習施設への説明も含め順調に進行している。
2. 学習支援と向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴う自宅学習中の学生に対する基礎専門科目の e-learning ソフトウェアを活用した学習支援 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生担任を中心に指導を実施している。基礎3科目模試の結果は昨年の1年生を上回った。 ・自粛期間後、初年次教育における障害者、家族の談話聴講による動機付けを図る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 昨年の初年次プログラムが実施できなかった学生には、今年度のプログラムをオンラインで聴講させ対応できた。

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験合格率の目標値は 95%、入学者あたりの合格率は 80%とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験合格率は 94.4%、入学者あたりの合格率は 70.4%であった。全国では合格率は昨年比 7%低下し、86%であった。 ・ 定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより、学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画、実行、振り返り、再計画の過程全てが不十分なため、全ての過程で助言、指導する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍の中にあつて、国家試験直前まで、指導を継続した。前期から複数回の模擬試験の結果、国家試験不合格者は最悪 9 名と予測されたが、2 名に抑えることができた。
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会貢献の一環として市民公開講座を開催する。 ・ テーマは「こどものスポーツとケガの予防」など、地域住民の暮らしと健康に関連したものとする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) (評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍終息まで、上記のテーマ実施は困難であり、今後も感染拡大防止を最優先とする。

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・作業療法学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 教育内容の充実と教育方法の充実 2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚 3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成 4. 市民公開講座の開催</p>	
<p>責任者:リハビリテーション学科長 分担者:作業療法学専攻長 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法の充実	<p>・基礎専門科目(解剖学, 生理学, 運動学)の到達目標を明示し, 年度末に業者の3科目の模試を試行し, 1年生には授業の学習の到達レベルの確認, 2年生には学習の進捗度合いを確認させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 基礎科目の到達目標を明示して, 年度末にそれらの科目において模試を行い, 合格の点数に至らない学生には課題を課して学習させた。</p> <p>・4年間の系統だったカリキュラムと各学年での到達目標を学年ごとにホームルームで確認させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ホームルームを定期的に行い, 学習や実習に向けた到達目標を確認し, 学生に確認させた。</p> <p>・2年生には, 昨年度の3科目の国家試験の模試の成績を参考にして, グループ分けを行い, それぞれに特別講義を行い, 国家試験の学習する機会を設ける。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2年生には国家試験の3科目模試の成績を参考として, それぞれのグループに課題を課して行わせた。また, learning box にて自主的に勉強することを促し, その進捗具合を管理した。</p>
2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚	<p>・オープンキャンパス, 特別講師の接待等に学生を参加させ, 今後学ぶべき専門分野, リハビリテーションへの理解を深めさせる。これらの機会を通して教員に協力することにより, 学生の専攻に対する帰属意識を喚起させる。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>コロナ下でオープンキャンパスや特別講師への手伝いなどが不可能になったが、オープンキャンパスにおいては学生も加わって計画した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学祭の専攻企画を学生に自主的に考案させ、大学祭を通して作業療法の啓蒙活動を行えるように援助する。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>コロナ下で専攻独自の企画は困難で、作業療法の啓蒙活動はできなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の学生と2年生の学生との交流会を企画し、学校生活および専門職の考え方を2年生から1年生に指導させ、1年生の向学心の育成、2年生の専門知識の再確認に努める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>対面とWEB上であるが2年生と1年生の交流会を企画し、学校生活および学習におけるアドバイスを1年生は2年生から受けることができた。</p>
<p>3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生に臨床実習の手引きを通して臨床実習のオリエンテーションし、臨床実習Ⅰ(見学実習)の準備を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ホームルームにおいて臨床実習のガイダンスを行い、臨床実習Ⅰの準備ができた。また、臨床実習Ⅰは全員が合格しその成果が出たと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生には臨床実習の構成と心がけについてホームルームにて指導する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>対面とWEB上でホームルームの開催を行い、学業及び学生生活の指導を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様、臨床実習指導者講習会を三重県士会と協力して開催し、臨床実習指導者を育成する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>作業療法の三重県作業療法士会と協力して、臨床実習の指導者講習会を大学にて行うことができた。この開催には教員が中心的な役割を担った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対して臨床実習の準備を学生生活の中で実践できるように指導する。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生生活において「あいさつ」「教員との対応」「課題の提出」など臨床実習を意識して行うことができた。</p>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座は昨年度作業療法学専攻が担当したので、今年度は理学療法学専攻にお願いし、作業療法学専攻は来年度の開催に向けての準備をする。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>市民講座はコロナ下で行うことができないでいる。昨年度に続いて作業療法学専攻では、講師の決定、場所の選定など準備を行なっている。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医療福祉学科長/医療福祉学専攻長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善</p>	<p>ソーシャルワーカー（医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカー）として活動する人材を育成するため以下のことに取り組む。</p> <p>①悪性新生物等、難病、認知症、各種の疾患、身体障害・知的障害・精神障害を抱える当事者や家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解しPDCA サイクルに即して実践できるように、支援に関わる講義科目と演習科目の連携を強化することをとおして、知識と技術の一体化を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本専攻を卒業し、社会福祉士（行政機関ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー、社会福祉協議会福祉活動専門員等）および精神保健福祉士資格を活かし、ソーシャルワーカーとして活動したいと考えている学生たちが上記①の対象者に対して、適宜、適切な支援ができるよう講義・演習を通して専門知識と援助技術の一体化をはかることで一定以上の成果を上げることができた。</p> <p>②地域社会とのつながりを重視し、地域包括支援センター、日本てんかん協会三重県支部、日本パーキンソン病友の会三重県支部等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、当事者が抱える福祉ニーズを適切に理解する能力を育み、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワークの展開を学ぶことができるようにする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>コロナ禍の折、対外的なかわりが制限されたため必ずしも十分とは言えないまでも、医療・福祉現場において社会福祉学の学びを裏付けする実践活動を展開することができた。</p>

	<p>③多様性を携える当事者・利用者・患者に対して、適切なアセスメント力と実践的なコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての資質を高めるために、ロールプレイングなどアクティブラーニングを可能な限り授業に取り入れる。個々の学生にとって、理解可能な授業関係資料を準備することを心がけるとともに、学生の到達度に応じた学習方法を指導するなど、きめ細やかな対応を心がける。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>アセスメント力、コーディネート力の修得・強化に向けて、工夫を凝らした講義・演習の取り組み（ロールプレー他）を展開し、ソーシャルワーカーとしての力量を確実に身に着けることができ目標を達成した。</p> <p>④医療福祉現場の具体的な事例の検討、ゼミ単位でのグループ学習、学外学習、社会貢献活動などより、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>「医療福祉演習」では、医療・福祉現場で活動中の多くの卒業生を招聘しての講義（zoom 授業等）の他に、事例検討として一般医療機関・精神科医療機関・福祉施設・行政関係機関、また、社会貢献活動としての日本てんかん協会等々の学びを通して専門的な視野の拡大に役立てることができた。</p> <p>⑤障害学生に対する教育環境の改善に積極的に取り組み、共生社会の実現に貢献できるソーシャルワーカーの養成を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本専攻内に心身にハンディをもつ学生も存在し、障害があっても生き生きとした学生生活を送ることができるための各種の細かな支援を実施することにより、周囲の学生へも好影響を及ぼしている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学生間の学力の格差を縮めるとともに、学習進度および理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <p>①国家資格の国家試験指定科目に関して、講義科目についてはテキストと参考文献を用いた予習・復習を推奨するとともに、演習科目については振り返りの復習を強化する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大防止のための方策としてリモートによる学習形態が継続することにより、対面での指導ほどは成果が上がらないものの、各教員が細かな対応を心がけ国試対策に取り組んできた。</p> <p>②卒業生や社会人で実際の医療福祉現場で活躍するソーシャルワーカーの講義や、福祉施設・社会福祉協議会での相談援助実習やフィールドワークを通して、ソーシャルワークに対する関心を引き出し、できる限り早い時期から対人援助職のイメージ化を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>多くの科目では、医療・福祉現場で活躍しているOBによるリモート授業を導入することによって、多大な教育的効果が見られ大きな刺激となった。また、現場の状況が詳細に語られることにより、理解の促進がはかられ、とりわけ現場実習前の段階でのこの種の学びは極めて効果的であった。</p> <p>③専門職団体(社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワ</p>

	<p>一カー協会等)との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していくあるべきソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>専攻内の教員と地域の専門職団体との関係は極めて良好、且つ友好的であり、コロナ禍の下とはいえ三重県医療ソーシャルワーカー協会、三重県精神保健福祉士会、ソーシャルワーク教育連盟等の団体とは、研修会等を通してたびたび交流し、学生の就職活動にも好影響を与えることになった。</p> <p>④地域における引きこもり、自死、貧困や権利侵害や虐待等に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学外におけるアウトリーチ活動は自粛したが、学内での講義において、これらの事柄をタイムリーな話題として取り上げ学習を進めた。数名の学生が卒業研究においてこれらをテーマにして卒業研究に取り組み一層学びを深めることができた。</p> <p>⑤ICT の活用や学生との個別面談により、学習方法の相談に応じ就学の課題解決に取り組むとともに、成績の伸び悩みを抱える学生については学習意欲の向上にむけて保護者との連携・調整を強化する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ICT の活用、学生との個別面談等により、個々の学生のニーズ把握や時機を逸しない対応が可能となった。また、保護者との緊密な連携をもつことで休退学者を殆ど出すことなく経過することができた。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>本学科卒業の第1期生から13期生までの13年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は59.1%(全国18.8~30.6%)、精神保健福祉士は本学79.8%(全国56.9~63.3%)であり、全国的にも高水準の合格率となっている。今後この水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <p>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を70%、精神保健福祉士合格率の目標値を90%とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3年時より4年次2月の国家試験までの間に、計15回の模擬試験を実施、また、これ以外にも特講として毎週、各教員が分担して国試対策講座を3年・4年生に行い、実力をつけさせている。これらにより目標に近づけさせている。</p> <p>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>今年度の社会福祉士国家試験は受験者数21名、合格者数13名。精神保健福祉士は受験者3名、合格者2名であった。新型コロナウイルスの影響で対面での指導が十分できなかったが、入学者あたりの合格率では目標値はほぼクリアできた。</p> <p>③全国レベルの模擬試験と学内での模擬試験、3年次から、年間おおむね10回実施し、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の</p>

	<p>確認に活かす。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>模擬試験の実施後すぐに採点をし、個々人の苦手科目を掌握し、次回までに学習が進むべく働きかけを強化する。ゼミ担当者が成績を把握し、個人面談をすることで細部にわたる指導・援助をしている。</p> <p>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーによる補習講座を4年次に実施する。成績の低迷している学生には、個別の学習支援を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教員全員で国家試験対策講座を分担し、さらには外部の東京アカデミーの講師陣によるキメ細かい対策を行った。学生からは適切な学習方法が理解できたと概ね好評であった。</p> <p>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲の乏しい者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ゼミ担当教員より保護者へ連絡をし、面談によって協議を行い、その結果協力を得ることができた。</p> <p>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず働きかけていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各教員が、個別に国家試験対策授業「社会福祉特講・精神保健福祉特講」を実施し、過去問や教員が作成した問題への取り組みを行った。さらに、各ゼミにおいて直接指導を行うあるいは、メールにて指導を行ったりすることによって、学生の指導にあたった。</p>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>①学科(医療福祉学専攻)が主催する市民公開講座に多数の学生の出席を促すとともに、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士はじめ現場ソーシャルワーカー、地域住民を招待し、学内外の交流の場とする。なお、公開講座の講師には、身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者、児童、引きこもり、不登校など、いわゆる「社会的弱者」を支援する支援者を招くよう計画立案する。</p> <p>なお、今年度は昨年度新型コロナウイルスの影響で延期となった戴伸峰講師(台湾国立中正大学教授)「犯罪と逸脱の心理学：台湾の現状と展望」に市民公開講座を担当していただく予定である。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度も、冬期に市民公開講座を予定していたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大により、当日講演(「犯罪と逸脱の心理学：台湾の現状と展望」)予定であった戴伸峰講師(台湾国立中正大学教授)より辞退の申し入れがあり、前年同様に公開講座を次年度に延期する運びとなった。ただし、本公開講座においても準備は滞りなく進んでいる。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり 2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる 3. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者：医療福祉学科長 分担者：臨床心理学専攻長 事務局：教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり。	<p>①公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻では、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。そして、このことが、臨床心理学専攻の特色であり、魅力づくりに繋がります。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 公認心理師、臨床心理士養成にそったカリキュラムを作成し、そのカリキュラムを運用しています。</p> <p>②学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。実践力の基礎となる知識、技術の獲得と支援者としてふさわしい資質の向上を重視し、大学院進学を目安を学生が具体的に認識できるように指導・援助します。また卒業後すぐに大学院に進学しない学生が、学部教育で学んだことを活かして就職する道筋を具体的に描くことができるようにしていきます。公認心理師試験を意識した講義を行うと共に、教員各自が担当する科目内容を実践に則したものにしていきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 心理アセスメント及び心理療法の具体的内容を学部段階から具体的に実践することにより、大学院進学、就職に対応できるよう指導しています。</p> <p>③公認心理師国家試験や臨床心理士試験において、大学院生、学部生による縦の勉強会であるサイコロクラブを発足させました。サイコロクラブは2019年度に、全体会議で1回、各グループでは、延べ約10回開催されました。今年度は、COVID-19の感染予防に注意を払いながら順次開催していく予定です。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2020年度はzoomでの開催を続けてきました。学部3年生と大学院生の懇談会を開催し、学部3年生が将来の目標を定めやすいよう支援しました。</p>

<p>2. 大学院教育及びこころの相談センター等の地域貢献を充実させる</p>	<p>①修士論文の作成につきましては、それぞれの論文の内容に即した臨床経験の豊かな教員が指導し、引き続き質の高い修士論文を完成させることができるよう指導していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2020年度は14名の大学院生が修士論文を提出でき、合格となりました。</p> <p>②大学院生は、修士課程修了時には、外部専門相談機関において、専門職員として十分に実践可能な能力を獲得していることが重要な目標になります。教員は彼らの実践力を向上させるためのスーパービジョンを行うこととなります。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>すべての大学院生に対して、個人スーパーヴィジョン及びグループ・スーパーヴィジョンによりケース指導を行いました。</p> <p>③大学院修士2年生はこころの相談センターにおける1年間の実践の学びにより、実践力の力が向上し、指導教員のスーパービジョンのもとで、各自でクライアントを担当し、カウンセリングを実施する予定です。ただ2020年はCOVID-19の感染拡大のため、カウンセリングの実践が4か月以上中断を余儀なくされましたが、2020年7月中旬よりカウンセリングを実施する予定です。2020年度においては、COVID-19の感染を予防しながらこころの相談センターを運営するという新たな試みを検討し、実行することが課題となっています。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2020年8月にこころの相談センターにおけるカウンセリングを再開し、十分な感染予防対策を行いながら、現在までカウンセリングを継続しています。</p> <p>④COVID-19の感染拡大によるこころの相談センターの一時活動停止はありましたが、地域連携・貢献について、本学こころの相談センターが重要な役割をこれからも果たすことは十分に可能であり、相談依頼件数も高い水準で続いています。鈴鹿市や亀山市など、近隣の教育委員会からの研修依頼にも応じており、地域連携を尊重した地道な活動を続けます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>鈴鹿市、亀山市の教育委員会からの研修依頼に応じて、研修を実施しました。</p> <p>⑤本学大学院の修了生がこころの相談センターでの研修やカウンセリングを継続して行うことのできる研修員制度も2020年度から始まっており、今後の地域貢献に役立つと期待されます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>5名が研修員制度を利用して研修中です。</p> <p>⑥本学の附属施設である、こころのクリニックでは、医療機関としての診療継続の必要性より、COVID-19の感染流行中も感染予防に最大限の留意をしながら診療を続けていますが、受診患者数は開院以来増え続けています。このことも地域貢献につながっています。こころのクリニックでも大学院生は研修しており、こころのクリニックも本学における臨床実践力の向上に寄与しています。</p>
---	--

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>すべての大学院生がこころのクリニックで診察の陪席とその後の指導を受け、あるいは事務業務の補助員として、直接受診者に接しています。</p>
<p>3. 市民公開講座の開催</p>	<p>2020 年度においては、COVID-19 の感染予防のため自粛する予定です。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2020 年度は市民公開講座を自粛しました。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者:高木久代、浦田繁、斉藤宗則、廖 世新、鈴木 聡、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健、瀧本未来 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1. 授業を含む教育活動のオンライン化の構築 新型コロナウイルス感染症の影響により平素の教育活動が不可能となり、オンライン化が実施されているが、対面授業のような傾聴や習熟度を確認しながらの授業の実現には工夫を要する。実技・実習科目においては更なる工夫が要求される。各教員が習得させるべき事項を再確認し、最大限の創意工夫をもって対処する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生達の傾聴や習熟度を確認したオンライン授業を実施。特に実技教育や臨床実習においては、実際の実習を想定した実践に近い内容を提供しています。</p> <p>2. キャリア教育の充実 ①専門教育「鍼灸への誘い」により、鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標として教授する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鍼灸師教員全員で担当。鍼灸師となるあるいは東洋医学をすることになったきっかけや経緯を紹介しながら、伝統医学・東洋医学・スポーツ・美容・中醫師・漢方・統合医療・海外の鍼灸・薬膳・留学などのテーマに基づき、歴史・現状・将来像について解説した。</p> <p>②キャリア教育講演を年1回開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2020年12月12日に7期生森田麻紀先生によるキャリア講演会をリモートにより開催。就職した3会社の業務内容と特徴などについてアドバイスを含めて講演。</p>

	<p>③キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生の「鍼灸への誘い」において、キャリアデザインについて解説し、学生に設計させてリモートによる発表会を実施。</p> <p>3. 鍼灸スポーツトレーナー学専攻における教育内容の充実 スポーツトレーナー学および資格試験の知識・技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。施設および実施内容を検討。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学外実習は感染対策のため中止。学内の実技教育でフォローしている。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>1. 個人面談 学習の状態を細かく聴取して改善法を見つけ出し、反復して面談することによってその実行を促す。常に情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から面談を実施。成績下位および欠席不良の学生には反復して行い、改善が乏しい場合は支援者に理解してもらい双方からのかかわりを強化している。</p> <p>2 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 通年で開催している球技大会、取穴大会を含め、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 感染対策のため中止。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標 受験者あたりの合格率 100%、 入学者あたりの合格率 75%を目標とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 受験者あたりの合格率：はり師 86%、きゅう師 100% 入学者あたりの合格率：はり師 69%、きゅう師 75%であった。 入学者あたりの合格率は前年度を上回ったが、はり師が目標を達成しなかった。</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。 ①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全教員が気概を高め、国家試験を意識した授業を実施している。</p> <p>②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評価する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>担当教員が国試過去問題とオリジナル問題で評価している。</p> <p>③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3、4年生の対策授業で実施。</p> <p>④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4年生は実力テストの結果から、1～3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講およびトコトン教育を行い、課題、口頭試問、小テストを実施した。</p> <p>⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組む。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試対策委員と学科長による個別面談を実施、それに加えて担当教員を割り振りして学習状況、小テスト確認を実施した。</p>
<p>4. 市民公開講座</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により開催していない。 (評価不可)</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の実施 5. 学生確保の取り組み 	
<p>責任者:臨床工学科長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>①大学新入時にEarly exposureを行い、初年次教育の充実を図る。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 Early exposureとして計画されていた病院見学が新型コロナのため中止となったが、本学科教員6名でキャリア講演会を開催し、臨床工学技士業務と今後の進路について理解を深めてもらった。</p> <p>②臨床工学科教育の質保証委員会を活用し、カリキュラム等について検討する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 令和5年度の入学生から適用される「新臨床工学技士養成所カリキュラム」について、従来のカリキュラムからの変更点を学科内で共有し、教育の質保証委員会からカリキュラム検討委員を選出し、カリキュラムについて検討を行っている。</p> <p>③4年前期・後期に開講される学科全教員による国家試験対策としての特別演習科目の充実を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科教員全員で国家試験対策用のオリジナル教材（臨床工学科ハンドブック）を作成して学生に配布している。4年前期・後期に開講されている「臨床工学特別演習Ⅰ～Ⅴ」でこの教材を活用した国家試験対策を行っている。</p> <p>④演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実習科目では、ルーブリックを用いて総合評価に反映させている</p>

	<p>が、新型コロナ感染防止対策のため、実習科目がオンラインでの実施となり、ルーブリックを活用して評価を行う実技試験・レポートなどの項目が減少し、総合評価に十分に反映することができなかった。</p> <p>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-PO および learning BOX を活用した資格試験対策のコンテンツが準備されており、その他活用事例についても学科内で紹介されている。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>①GPA に基づき学習指導計画を図ると共に GPA 上位学生の進路を含めた早期活動の促進を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年次後期に GPA が 1.5 以下の学生に対して学修指導を行っている。また、GPA 上位の学生には、4年次の4月から就職活動開始の許可を与えている。</p> <p>②学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 現在、学内ボランティアセンターは活動を休止しており、また、大学から課外活動が禁止されているため、ボランティア活動は実施できていない。</p> <p>③欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り状況を把握する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務課からの資料にもとづき、欠席回数が多い学生に対して、各学年の担任教員が指導を行っている。</p> <p>④大学祭における学科発表の支援強化を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学祭がハイブリッドでの開催となり、学科発表を行う機会が無かった。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の 100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として90%を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 今年度新卒の国家試験合格率は 95.1%、入学者あたりの合格率は 68.6% (35名/51名)であった。</p> <p>②合格ラインへの到達に向け、GPA 及び模擬試験によるクラス別編成を行い、前期より、自習の義務付け並びに国家試験対策補講出席を促す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎月実施する総合模擬試験の成績から、「C クラス」と認定された学生は、国家試験対策室での自習の義務付けと対策講義への出席を促した。</p> <p>③各クラス別学生の進度に対応した国試対策や学修サポートを行う。</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験の成績と GPA から、「A クラス」、「B クラス」、「C クラス」の3つのクラスに分類して国家試験対策を実施している。</p> <p>④国試頻出問題のポイントを指導、必須基本問題を繰り返し行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 最低限必要な項目を記載した「臨床工学科ハンドブック」を学生に配布し、「臨床工学科ハンドブック」を活用した対策講義を行うことで、頻出ポイント・必須問題の指導を行っている。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握している。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各教員は国家試験の各専門分野には精通しているが、臨床工学技士国家試験は「医学系科目」、「工学系科目」と全く分野の異なる科目が試験科目であるという特殊性から、国家試験全体の把握は一部の教員で行なっている状況である。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「過去問活用ソフト」を用いた模擬試験の作成と採点を行い、学生全員の模擬試験の成績の管理を行っている。</p> <p>⑦国家試験全国統一模擬試験の3年次からの受験を促し、早期より国家試験への意識を高める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生には、全国統一模擬試験の受験を勧めており、すくなくとも、一回は受験をしてもらっている。</p>
<p>4. 市民公開講座の実施</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未定であるが、開催が可能な場合は、医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) (評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民公開講座は中止となった。</p>
<p>5. 学生確保の取り組み</p>	<p>①オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行うとともに来場者への説明等を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 オープンキャンパスでは必ず在校生に参加してもらい、頒布品の配布や来場者の案内および説明を行っている。</p> <p>②高校への出張授業や大学紹介及び臨床工学技士紹介イベントへの参加をすすめる。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、高校への訪問、臨床工学技士紹介イベントは中止となった。</p>

	<p>③3年次より就職ガイダンスや各種対策講座への参加を促し就職活動を進める。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3年次での就職ガイダンスは新型コロナ感染拡大防止のため、4年次に延期され、4年次に就職ガイダンスを実施した。</p>
--	---

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医用情報工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 2. 学習支援と向学心の高揚 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医用情報工学科長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改組後に発足する医療健康データサイエンス学科の開始に向けて、新学科で開講する全科目の教育内容とそのレベルに関して、教員間での意識のすり合わせ作業を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ・学科会議で国家試験などの合格者・資格取得者を増やす方法に関して教員間での意見のすりあわせを行っている。 ・新しく開講する授業科目について、既存の授業科目を含めた関係する授業科目の担当者間で連携方法、教育内容の分担、授業のレベルについて議論した。 2. 人材育成目標、教育方法などについては高校生に周知する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ・新学科「医療健康データサイエンス学科」の開設に関する記者会見(2020年10月27日)を開催し、新聞記事とテレビのニュース番組で新学科の開設に関する報道が行われた。 ・伊原医用工学部長と本学科の教員と一緒に、以下の20校の高校訪問を行い、進路指導の担当教員に新学科の説明を行い、意見収集を行った。 ①皇學館高校、②伊勢工業高校、③宇治山田高校、④松阪高校、⑤相可高校、⑥三重高校、⑦高田高校、⑧松阪工業高校、⑨津東高校、⑩神戸高校、⑪鈴鹿高校、⑫四日市南校区、⑬四日市工業高校、⑭四日市中央工業高校、⑮暁学園高校、⑯メリノール学園高校、⑰四日市西高校、⑱四日市商業高校、⑲川越高校、⑳津田学園高校 ・津商業高校での進路説明会(2021年2月22日)で高校生に医療情報系の教育内容、大学と専門学校との違い、卒業後の待遇と進路などについて直接説明した。

	<p>■ 現学科に関して</p> <p>1. 医療健康データサイエンス学科は、現学科を包含したより大きな学科であり、教育内容の変更は時代の流れに沿って現学科での教育についても対応すべきものである。上記1の議論を通じて、現在の科目内容を見直し、時代のニーズにより適した形に改める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度に新学科を開設するため、新しい授業科目の開講準備を行った。また現学科の授業科目について、データサイエンスの視点から教育内容とレベルの見直しを行い、連続性を高める工夫について議論した。 ・現学科の学生に対して、新学科の授業科目が履修できるように、振替科目表の作成を行い、学生に説明した。
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <p>1. 新カリキュラムの設計段階で、学生に夢を持たせ、そして育むことを目的とした企画をいくつかの科目の中に組み込んでいる。それを成功裏に動くように、内容の精緻化を図る。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現学科の授業科目「フレッシュマンセミナー(必修)」「2年生医療情報セミナーI(必修)」でデータサイエンスとその利活用例について説明した。 ・現学科の授業科目「医療情報システム実習II(必修)」で新規の実習テーマとして「人工知能を使用した文字認識ソフトウェア(OCR)」を使用したコンピュータ実習を行い、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展に関して説明した。 ・現学科の授業科目「医療情報システム実習II(必修)」において、三重県雇用経済部と連携し、「みえICT産学金官マッチングイベント」(2020年12月8日)をオンラインで実施した。なお講師には、金融機関の地域産業支援担当者、ケーブルテレビの技術者、地域のTI企業のシステムエンジニア(本学科の卒業生)で、学生の卒業生の活躍状況を知る機会となり、進路に関する意識の向上を図ることができた。 <p>■ 現学科に関して</p> <p>1. 少人数教育を継続する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現学科の授業科目「診療情報管理セミナーI(選択)」「診療情報管理セミナーII(選択)」「医療情報技師セミナーI(選択)」「医療情報技師セミナーII(選択)」「3年生医療情報セミナーI(必修)」「医療情報システム実習I(必修)」「医療情報システム実習II(必修)」「卒業研究」などで少人数教育を行っている。 <p>2. 資格取得など、目的意識を持たせた教育を継続させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現学科の授業科目「診療情報管理セミナーI(選択)」「診療情報管理セミナーII(選択)」「医療情報技師セミナーI(選択)」「医療情報技師セミナーII(選択)」などで国家試験の受験、資格取得に関する教育を行っている。 ・「情報処理技術論IV」の授業中で、ITパスポート(国家試験)に合格するために行っている小テストを実施後、グループで理解不足の課題について話し合い、今後の学習方法などについて意見交換を行っている。

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新学科にとっての合格率とは、入試での受験倍率を意味する。 2. 新学科が成功するか否かは、初年度の倍率がいかに高いかにかかっている。高校生にとって魅力的で将来性のある学科であるかをアピールするのに役立つ全ての戦術を試みる。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者向けの音声を入れたイラスト動画を入学課と一緒に作成し、Web 公開し、オープンキャンパスで上映した。 ・入学希望者向けの新学科の紹介パンフレット、キャンパスガイド2021の原稿、総合型選抜の説明文を作成した。 ・一般の方に新学科を開設することを知っていただくために、朝日新聞の全面広告「東海の大学力 知の最前線」(2020年5月)のCAMPUS TOPICSで、「2021年、医療健康データサイエンス学科を開設予定」の原稿を作成した。 ・数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの連携校に三重県の教育機関として初めて申請し、承認された。そして、このコンソーシアムのホームページから本学へのリンクが貼られ、データサイエンスの教育をしている教育機関であることを示すことができた。またこのコンソーシアムが発行しているWebの「ニューズレターvol.10」(2021年3月3日発行)に新学科が紹介された。このコンソーシアムに関しては、受験関係のホームページでも取り上げられており、今後、データサイエンスの学習に関して意欲的な学生が入学希望すると考えられる。 <p>■ 現学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現学科での合格率とは、各種資格試験の合格率である。資格試験科目の目的を、「資格に関連した内容を教育する」から「資格を取得する」としたことにより学生の目的意識に変化が現れ、ITパスポートや診療情報管理士の資格試験の受験者数並びに合格数に改善がみられる。他大学と比較して自慢できるほど高い数値目標を掲げられる状態ではないが、学生への動機づけと意識改革の努力を継続する。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITパスポート(国家試験)合格者数:11名(受験者数不明) ・医療秘書技能検定試験3級合格者数:18名(19名受験) ・医療秘書技能検定試験2級合格者数:8名(8名受験) ・診療情報管理士合格者数:1名(8名受験) (参考:2019年度合格者数:11名(20名受験)) ・医療情報技師の試験は新型コロナウイルスの関係で中止 ・新学科の授業では国家試験・検定試験の合格者数を増やすために各授業で教育する内容を関連授業の担当で調整している。 ・「情報処理技術論Ⅳ」の授業中で、ITパスポート(国家試験)に合格するために小テストを実施しており、小テストを実施後、グループ学習により、理解不足の箇所を理解させる工夫を行っている。
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療健康データサイエンス学科が認可された時点で、データサイエンスに関して市民公開講座を開催する。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可:新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市市民大学講座「21世紀ゼミナール」において、本学科の教員が「人工知能(AI)が拓く先進医療と私たちの暮らし」(講師:鶴岡、2020年10月10日、「デジタルトランスフォーメーション(DX)で市民

	<p>生活はどのように変わるのか？」(講師:鶴岡、2021年2月13日)の2回の講座を担当し、医療健康分野のデータサイエンスの重要性と新学科の紹介を含めて、市民に講演した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民が視聴できる、「医療健康データサイエンス学科開設記念シンポジウム」(開催日2021年5月29日(土))の企画を立案し、来賓(三重県知事)、講師に依頼を行った。 <p>○受験者数を増やすには、保護者にも医療健康データサイエンスの重要性を理解していただく必要があり、以下のような社会人向けの啓蒙活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県 ICT・データ活用コミュニティにおいて、「鈴鹿医療科学大学医用工学部医療健康データサイエンス学科の開設について」(2021年2月16日)(講師 鶴岡)がオンライン講演を行った。 ・地域イノベーション学会会長勉強会(2020年10月14日)で「医療健康データサイエンス」(講師 鶴岡)についてオンライン講演を行った。 ・三重ハイテクフォーラム・データサイエンス研究会(会員:三重県の中小企業の従業員)で、「デジタルトランスフォーメーション(DX)で生活はどのように変わるのか？」(講師:鶴岡、2021年3月11日)の講演を行った。 ・医療従事者向けの情報サイト m3.com において、鶴岡が「医療系データサイエンティストを育成する学科を新設」に関するオンライン・インタビューを受け、2021年3月19日と3月26日の2回に分け、地域情報の欄に掲載され、公開された。 ・三十三総研発行の「三十三トピックス」(2021年4月下旬発行予定)のヘルスケア「あなたは健康維持のためにデータを活用していますか？」(鶴岡)を寄稿した。
--	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（看護学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 2020年度入学定員100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。 将来の専門職者としての向学心を育成する。 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。 	
<p>責任者:看護学科長 分担者:中井三智子（教務委員長）、江口秀子（学生委員長） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 2020年度入学定員100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。</p>	<p>①2020年度入学定員100名になるに当たり、三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保するための準備をするとともに、臨地実習を通して地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <p>◆2021年度2年次基礎看護学実習施設の準備をする ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、施設での実習が行えない可能性はあるが、実習先の確保はできた。</p> <p>◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、実習先での実習ができない領域実習等があった。1年次からの系統立てた実習配置であり、実習の後ろ倒しが困難であったため、学内やオンライン実習に一部切り替えざるを得なかった。創意工夫をしながら実習を展開したが、施設での実習の学びと比較すれば限界があった。</p> <p>②これまでの教育の課題を踏まえて改正した新カリキュラムのすみやかな運用を実施する。</p> <p>◆2020年度入学生適用の新カリキュラムについて、決定した進級基準、新旧科目の読み替えや履修登録単位数の上限を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 旧カリキュラムで入学し原級留め置きとなった学生に対して、積み上げ教育の効果を考え履修の優先度を決定したり、入学時のカリキュ</p>

	<p>ラム内容で受講できるよう特別開講し、進級基準を満たすことができるよう配慮している。科目の読み替えで授業時間が減ったものについては個別の課題提示などで対応し学習目標を達成させる。</p> <p>③入学定員変更に伴う教育環境の整備を行う。 ◆2020年度入学定員100名になるに当たり、講義室・実習室等の施設・設備や物品の段階的な整備を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年次までの定員増における演習科目の物品の整備は円滑に行えた。</p> <p>④2020年度の新カリキュラムを踏まえ2022年度の新カリキュラムの作成を行い、さらなる教育内容の充実等を図る。 ◆2022年度新設である地域・在宅看護論と現行カリキュラムを精査し、必要な科目及び授業内容を加える準備を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年度の新カリキュラムの作成が行え、文科申請の準備段階である。</p> <p>⑤COVID-19の蔓延により前期の多くの授業がオンラインとなった。アクティブラーニングをより充実させるために、オンライン授業の内容の充実を図る。 ◆オンライン授業の円滑な運営を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科の全学生のオンライン授業の受信や参加状況を確認し、受講や参加に問題は出ていない。</p> <p>◆オンラインでさらに教育内容を充実する <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 既存の映像教材の活用や独自の映像教材を作成し配信するなど、具体的なイメージにつながるよう教材に工夫を凝らした。オンライン授業では小グループセッションの機能を活用したり、クリッカー、learning box, Google Formなどを活用し、アクティブラーニングを実践している。</p> <p>◆感染拡大防止に配慮しつつ、看護専門職として必要な看護技術の習得ができるよう、学内演習環境の整備、演習方法の検討を行いシミュレーターを効果的に活用する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 感染拡大防止のため、学内演習前の体調管理、手指消毒、マスク・フェイスシールドの着用の徹底、複数か所の開放とサーキュレーター併用し換気を徹底するとともに、使用物品のアルコール消毒を行い感染拡大防止に配慮している。モデルやシミュレーターを活用し、実践能力としてあげられている看護技術を修得できるよう演習を実施している。</p>
<p>2. 将来の専門職者としての向学心を育成する。</p>	<p>①1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。 ◆2020年度医療人底力実践基礎I学科プログラムにおいて企画する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 本学の卒業生（2年目）からは職場選択から就職してから一人前になるまでのプロセスについてプレゼンテーションを受けた。さらに保健師や助産師、訪問看護師・地域包括ケアなど地域で活躍する看護職、認定看護師・専門看護師・看護管理者というエキスパート看護師からの話を聞く機会を設け看護職の活動の場やキャリアデザインについて考える機会とした。</p> <p>②初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。 ◆臨地実習直前のマナー講座を1-3年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。 2020年度はCOVID-19の感染予防のため、9月からの臨地実習に向けての2年生・3年生対象のマナー講座は、8月にWEBで実施予定である。1年生対象のマナー講座については、感染症の拡大状況を踏まえて実施方法は検討予定である。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2・3年生の臨地実習前のマナー講座は8月にwebで実施し、視聴率は2年生95.6%、3年生98.9%で、アンケート結果も概ね良好であった。1年生については初めての体験実習であり感染予防を徹底して、実習オリエンテーションの中で対面で行った。</p> <p>③在校生がクラスを超えて交流する機会や卒業生との交流の機会を持ち、クラスや先輩・後輩の一体感・連帯感を育むとともに、4年間の学修について予測性をもって進めることができるようにする。 ◆2020年度医療人底力実践基礎I学科プログラムにおいて、オンライン授業にて、1年次と4年次・卒業生が交流する企画を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 医療人底力実践基礎I学科プログラムの中で4年生から大学生生活の過ごし方や臨地実習や国試対策、保健師過程のことなどの説明を受ける機会をも設け、1年生からも積極的な質問がみられた。また現場で活躍する卒業生からの話を聞く機会も設けた。</p> <p>◆2020年度後期ガイダンス終了後に「3・4年生臨地実習等情報交流会」を企画し、3年生と4年生がオンラインで交流する機会をつくる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 4年生がオンラインで臨地実習への取り組みや学習のポイントなどを3年生に情報提供する機会を作った。その後オンラインのグループセッションでは、実習や国家試験対策などについて質疑応答や体験を伝えたり、アドバイスをするなど、交流の機会を設けた。</p> <p>④2020年度から各学年に3-4名程度のクラス委員をおき、クラス委員が中心となって、学生交流の活発化や学習環境充実の問題提起等含め、学生の自発性を伸ばす。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生は入学後からオンライン授業が続いたなかで、クラス委員を中心にZoomを用いての交流会や登校開始後に感染予防を行いながら学内オリエンテーションによる大学施設に触れる機会を設けるなどクラス委員を中心に大学生活に順応できるようにクラス運営をおこなっていた。2年生は登校時の感染予防についてクラス委員を中心に注意し合い対策を考えていた。このようにクラス委員を置くことによ</p>
--	--

	<p>り、学生の自発性を育むことができたと考える。</p>
<p>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実ははかる。</p>	<p>COVID-19 の蔓延により対面でのセミナーが困難な状況であるが、オンラインと対面セミナーや個別対応を駆使して 2020 年看護師・保健師合格 100%となった対策を今年度もできるだけ実施し、合格率 100%を目指す。</p> <p>① 1 年次から 4 年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。</p> <p>◆2020 年度 1 年生、2 年生は、月 1 回程度の解剖生理学、病態治療の学修会、3 年生は前期にオンラインによる外部講師による解剖生理学・病態治療のセミナー、後期は実習のない週に実習グループごとに約 4 日の自己学習会、4 年生は定期的なセミナーと 11 月以降ハイリスクグループへの毎週 2 回のセミナーを実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>COVID-19 の蔓延により前期はオンラインセミナーに変更したが、出席率が低下することもなく、予定のセミナーは実施することができた。後期の 3 年生の実習終了後の知識の確認のための学習については感染予防の観点から半日（午前のみ）としたが、学生は集中して学習に取り組むことができていた。4 年生の定期セミナーは、感染予防と学習効果を踏まえて対面と Zoom の併用で実施し、ハイリスクの学生は必ず対面で受講するように指導した。ハイリスクグループへのセミナーは対面で予定通り実施し模試の成績向上につながることができ、2020 年度卒業生は全員看護師国家試験に、保健師課程の学生も全員合格することができた。</p> <p>◆2020 年度外部講師によるセミナーを 1 年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の修得と学修の促進を図るとともに、成績不振者への対応を低学年から行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生が苦手とする解剖生理・病態などの専門基礎科目の知識の定着を図ることを目的に学部講師によるセミナーを実施するとともに夏休みや春休み期間中に DVD 教材を用いたオンラインでの学修機会も設けた。しかし、これらの専門基礎科目の単位を修得できず 2 年次留め置きとなる学生が数名みられ、担当教員を中心に学習指導中である。</p> <p>◆4 年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、11 月初め～1 月末まで少人数のハイリスクグループへの学修支援を強化する。保健師国家試験対策セミナーを実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>模試の結果が思わしくないハイリスクの学生は、後期のセミナーは必ず対面で受講させるとともに、ハイリスクグループとして特別セミナーの受講対象とし、学修の強化を図った。その結果、全員が看護師国家試験に合格した。また、保健師国家試験対策セミナーを実施し、保健師課程の学生も全員合格した。</p> <p>② 国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、100%の合格率を維持する。</p> <p>◆2020 年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>外部講師予算として前年度とほぼ同額の予算を獲得し、前年度と同様のセミナーを実施することができた。ただし、繁忙期の外部講師の</p>

	<p>経費の高騰、および学生数の増加に伴う経費の獲得が今後の課題となる。</p> <p>◆2020 年度保健師国家試験模試を段階的・定期的実施し、出題の50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>計画通りのセミナーを実施することができ、保健統計、疫学、関係法規についての知識の向上につながり、保健師国家試験 100%合格に結び付けることができた。</p> <p>③学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <p>◆2020 年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生には4月の時点で年間計画を提示した。また、臨地実習時の国試対策学修についてもできるだけ早い時期に提示し、学生個々が自己学修のための時間管理ができるように努めた。</p> <p>◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>模試の結果はその都度学生委員会から担当教員に報告し、学修状況の確認と指導を依頼した。</p> <p>◆自己学修スペースとしてゼミ室や講義室を確保し、学修環境を整える。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>COVID-19 の蔓延により前年度のような学修環境を提供することはできなかったが、ゼミ室の使用は、教員の許可制とし感染予防に努めた。また感染予防のために閉鎖していたリフレッシュルームを利用する人数制限などの感染予防を徹底して、ハイリスク学生優先の学習スペースとした。</p> <p>④模試成績不振者への4年早期からの系統的な学習計画と個別対応を充実する。</p> <p>◆模試成績不振者には、学生委員と担当教員が連携し、後期には、週に数回の定期的な面談と学習指導を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>模試成績不振者については、学生委員会と担当教員が連携し、早期に保護者を交えた面談を行い、家族の理解・協力を得るとともに、11月以降は定型的な面談と学修計画の立案・指導を行った。その結果、2020 年度卒業生は全員合格となった。ただし、既卒者に関しては、模試やセミナーへの参加、担当教員との面談が今後の課題である。</p>
--	--

<p>4. 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。</p>	<p>①近隣地域在住の一般市民を対象に、人間・環境・健康・看護に関するテーマで「市民公開講座」を開催する。</p> <p>◆2019年度に専任教員が健康と病気の予防、家庭の看護に役立つ内容でテーマを募り、企画していたが、今年度は、COVID-19の流行と蔓延により中止となった。次年度、今年度担当予定教員による講座を開催する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(評価不可：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催不可)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>今年度実施すべく、準備中である。</p>
---	--